

施策番号	0101		
施策名	自然環境とくらしを気遣う環境の保全		
概要	優れた自然環境を後世に伝えていくため、自動車の排ガス対策等、自然環境、生活環境保全に向けた取組、環境問題に対する市民の理解と行動を広げる環境学習を推進する。		
担当局・部室	環境政策局・環境企画部、地球温暖化対策室	共管局・部室	
上位政策	1 環境		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市環境基本計画2016～2025, 京都市自動車環境対策計画(2011～2020), 京都市地球温暖化対策計画〈2011～2020〉		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		26年度	27年度	28年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	エコカーの普及台数(台)	a	a	41,212	51,421	48,000	107.1%	a	1.00
2	こどもたちが実践したエコライフの実施向上率(%)	b	b	8.9	9.2	10	92.0%	b	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		26年度	27年度	28年度回答					
				そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	有効回答者数 評価
1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	b	c	48 10.7%	111 24.8%	184 41.1%	62 13.8%	43 9.6%	448 c
2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	b	b	79 15.1%	235 44.8%	137 26.1%	53 10.1%	20 3.8%	524 b
3	-	-	-						-
4	-	-	-						-
5	-	-	-						-
		b	b	市民生活実感調査総合評価					b

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

総合評価						
A	施策の目的が十分に達成されている					
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	b	
(重み付けの理由) 環境の保全のためには、自動車の排ガス対策としてエコカーを選択する市民や事業者が増えることが重要である。また環境学習は、環境に優しい行動が根付くことを目的とした長期的な取組であり、その成果はすぐには市民に実感されにくいことから客観指標に重みを置く。						27年度
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。						26年度
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。						
						A
						A

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		28年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		27年度 決算額	28年度 予算額		
1	「世界一美しいまち・京都」の推進	32,864	35,810	良い	環境政策局
2	KYOTO地球環境の殿堂	10,035	8,035	良い	環境政策局
3	こどもエコライフチャレンジ推進事業	28,182	26,476	良い	環境政策局
4	太陽エネルギー利用設備資金融資制度(旧環境保全資金融資制度)	2,657	4,137	－	環境政策局
5	次世代自動車普及促進事業	11,853	13,393	かなり悪い	環境政策局
6	京都市低公害車普及促進事業	2,135	2,627	良い	環境政策局
7	ダイオキシン類対策	29,912	29,022	良い	環境政策局
8	大気汚染対策	186,917	199,262	普通	環境政策局
9	水質汚濁対策	126,180	131,362	普通	環境政策局
10	騒音・振動対策	62,429	66,215	良い	環境政策局
11	公害苦情処理及び公害防止事前相談	106,011	106,030	良い	環境政策局
12	北部農林業地域活性化対策	7,513	0	良い	産業観光局
13	生物多様性保全推進事業	38,283	39,980	かなり良い	環境政策局
14	不良な生活環境を解消するための支援及び措置事業	74,284	77,710	かなり良い	保健福祉局
15	京都市環境保全活動センター(京エコロジーセンター)	160,759	166,824	－	環境政策局
16	環境基本計画の改定	10,583	0	－	環境政策局
17	環境教育基本指針の策定	0	7,689	－	環境政策局
18	公衆トイレ整備	34,698	30,692	－	環境政策局
19	大岩街道周辺地域の良い環境づくりの推進	6,168	9,777	－	総合企画局

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・今後も市民や事業者、カーシェアリングや公共交通機関の利用拡大などの普及啓発を行うとともに、電気自動車等の導入や充電設備の設置促進などにより、電気自動車や低公害・低燃費車等のエコカーへの転換を図っていく。
- ・環境学習については、社会情勢の変化によるプログラム内容の見直しやフォローアッププログラムにより、更に充実した取組を続けていくことで、環境に優しい行動が根付くように努める。
- ・以上のことにより、市民生活実感の更なる向上を図り、自然環境とくらしを気遣う環境の保全を推進する。

施策名	0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全				
-----	------	-------------------	--	--	--	--

指標名	エコカーの普及台数(台)					
-----	--------------	--	--	--	--	--

担当課	環境管理課	連絡先	2 2 2 - 3 9 5 1			
-----	-------	-----	-----------------	--	--	--

1 指標の説明

EV（電気自動車）、PHV（プラグインハイブリッド自動車）、HV（ハイブリッド自動車）及びCNG（圧縮天然ガス自動車）等の京都市内での普及台数

2 指標の意味

環境の保全のためにエコカーの選択、普及状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：各種エコカーの台数を加算
出典：軽乗用車は(一社)全国軽自動車協会連合会及び本市納税室納税推進担当、それ以外は(一財)自動車検査登録情報協会の情報による

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	25年度	26年度		数値	根拠	達成度
数値	41,212	51,421	10,209台増	48,000	平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値	107.1%

	全国順位	中長期目標				備考
	数値	目標年次	達成度	根拠		
数値		12万	32年度	42.9%	京都市自動車環境対策計画<2011～2020>	算定に用いるデータの収集時期の関係から、平成26年度値が最新となる。

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、社会・経済情勢などの影響により、EV・PHVの生産量等が不安定となる場合があり、不確定要素が比較的多いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

26	27	28
a	a	a

1 指標の説明

家庭部門における温室効果ガス排出量の削減に向け、市内の全ての市立小学校において実施するこどもエコライフチャレンジについて、参加者全ての家庭でのエコライフ取組成果の集計データを100点満点で数値化し、取組前と取組後の数値の差異（すなわち改善度）を示している。

2 指標の意味

各家庭でのこどもたちのエコライフの取組成果について、取組前の数値から10ポイント向上することを目標としている。

3 算出方法・出典等

算出方法：取組後実施度－取組前実施度
出典：エコライフチェック実施結果より

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	26年度	27年度		数値	根拠	達成度
数値	8.9	9.2	0.3ポイント増	10	取組改善率が10ポイント向上する	92.0%

	全国順位	中長期目標				備考
	数値	目標年次	達成度	根拠		
数値						

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：10以上
b：7.5以上～10未満
c：5以上～7.5未満
d：0以上～5未満
e：0未満

6 基準説明

毎年、当該事業に参加するこどもたちが変わるため、単年度評価指標を設定。こどもたちのエコライフの取組が、取組前から10ポイント向上することを目指している。

7 評価結果

26	27	28
b	b	b